

かみくげ 恐竜の里新聞

平成二二年一月二五日

発行：上久下恐竜の里づくり協議会

第9号

上久下
地域づくり
センター
0795 78 0001

丹波竜化石発掘 第三次手掘り調査始まる

県立人と自然の博物館は一月九日、多くのマスコミが注目するなかで一〇カ月振りに丹波竜化石発掘調査をスタートさせました。

五〇名の登録ボランティアのうち初日に集まった二十名は、調査を指揮する三枝主任研究員の作業前の注意事項に耳を傾けたのち、早々と現場の河川敷に入り、慣れた手つきで小型削岩機を使って岩盤を小さく削り取ったり、取り出された岩塊をハンマーを使って更に細かく砕き、中から歯や化石の有無を慎重に調べていました。三次発掘では脚や首などの発見が期待されており、参加者は全身骨格の発見に夢をふくらませていました。

昨年に続き発掘調査に参加したボランティアの一人は「まだ見つかったくない脚や首、顎の骨は丹波竜の大きさや顔の形や進化の過程を想定するのに大事な部分と聞いている。なんとか出てきて欲しいものです」と話していました。

また、三枝主任研究員は周囲の期待に對して「発掘の成果がまちづくり活動に大いに貢献できるように頑張って調査

をしたい」と話して
いました。
調査は
二月末ま
で続きま
す。



三枝研究員の作業前のミーティングを取材する報道関係者

新春賀詞交歓会開かれる 市長・市議ら出席して

恒例となった上久下地区新春賀詞交歓会が一月二一日地域づくりセンターで丹波市長、山南町選出の市会議員を招いて盛大に行われました。地区内からは各団体、グループの長や歴代公民館長、企業の代表など六〇名が参加し、踊りやコーラスのステージを楽しみ、お互いになごやかに新年の挨拶を交わしました。辻丹波市長からは恐竜化石発掘が続く上久下地区の活性化に向けた支援の約束が示され、多いに飛躍する年となるよう激励を受けました。平成二二年の恐

竜の里（まち）づくり活動に地域一体となつて着実に進めていくことを確認しました。

自治協議会（柳川瀬義輝会長）からは国や県の支援事業への取り組みが報告され、県民交流広場事業での実施成果や計画が報告されました。（別項参照）

今年初めて参加し、ステージで「雪の華」を披露したおどりのグループの一人は「練習した踊りを市長さんや議員さん、地域の多くのみなさんに見てもらってうれしかった。これからの励みになります」と晴れやかな表情で語っていました。



ステージで丹波竜音頭を披露する参加者

地域づくりセンターを改装

県民交流広場事業の交付金で

県民交流広場事業（二二〇〇万円）交付金が支給されたことにより地域づくりセンターの部分改装と新設備の導入がはじまりました。

新設備面では

- ・ 多目的研修室（多目的ホールに改名）に放送・音響設備を新設
- ・ 二階大会議室（展示室・カルチャールームに模様替え）には展示ケースや映像システムを設置
- ・ 一階書籍保管倉庫（事務機器・事務用品保管室に模様替え）には高速プリンターを設置
- ・ 一階事務所にはロールプリンターを導入
- ・ 改装面では
 - ・ 別棟倉庫を改装して文書、備品保管場所とする（写真）。

これら事業によって新規購入備品の貸出しも可能となりました。液晶プロジェクター、スクリーン、大型テント（二×四間）などがあります。

また、設備利用可能なものとして高速プリンターやロールプリンターなど気軽に地域づくりセンターに申し出て下さい。



- ◆ 二月の予定
- ◆ 二月八日（日） 丹波市一斉河川清掃
- ◆ 二月一九日（木） かにカニ列車旅

われらが里の元気人 見つけた！ 5

藤原慎司さん
(九二歳・上滝)

藤原さんは大正五年辰年生まれで、まもなく九三歳を迎えられる元気なお年寄りです。上滝地内の男性の中では最高齢者で、今は畑で一二種類余りの野菜づくりに生きがいを感じておられます。現農協の前々身から延三五年余り農協畑で頑張つてこれ五五歳で退職され、その後も一〇年間はゴム靴などをつくる会社で働いてこれました。



戦争体験も豊富で、国内各地を転々するなかで、現在の健康な体の基礎ができたと振り返っておられました。「戦争のおかげで体がきたえられました」と語っていらっしゃいました。

メガネなしで新聞も読め、耳も「スズメのさえずりから、遠くのネコの鳴き声まで聞こえるんですよ」と誇らしげに話されているのが印象的でした。

健康長寿を有言実行されていることに言及すると、両親から宿命として授かった「健康」という遺伝子に頼ることなく、自身でも健康への十分な気配りをしている。酒もほどほどにし、たばこも健康に害と分かれば三〇年前にやめたそうです。また、奥さん（八九歳）も元気でおられ、家庭内に三世代夫婦が健康で

いるというのは上久下地区でも珍しいことです。そのことも健康長寿を語る上で欠かせないとも話されます。

山南町時代には八年間選挙管理委員として、また、そのうちの四年は委員長としても重責を全うされ、色々と苦勞話も伺いました。

毎朝夕に畑に入つては野菜と会話を

する、野菜も生き物、野菜の気持ちを持て理解して世話をしつてやらないといふ野菜づくりにできないと持論にも熱が入ります。その丹精こめて育てた白菜を記者（SM）にお土産としていただきました。取材へのご協力とともにありがとうございました。

クラブ活動紹介 茶道同好会 6

上久下茶道同好会は昭和四七年に上久下青年学級として若者達の会が発足し、昭和五一年に現在の茶道同好会として誰でも入れる茶道クラブになりました。発足当初は一五名ほどの会員でスタートし、三六年間続いている歴史あるクラブです。長年の間に高齢化も進み会員数も減ってきていますが、高齢グループが昼間に、中年グループで経験の浅い会員は夜間に別れて稽古を続けておられます。

上久下地区文化祭には初回より茶席のボランティアをしてもらっています。発足当初より指導に当たっている森

田紀代美さんは「現代の忙しい世の中で、静かな心優しいひと時を持ち、精神をリフレッシュするには茶の湯は最適ですよ。興味のある方はどなたでもご入会して頂くようお待ちしております」と話されています。



※今回をもってこのコーナーは終了します

丹波電がコウノトリと共演 大丸神戸店で

兵庫県の二大「宝もの」といわれる丹波の恐竜（丹波竜）と豊岡のコウノトリが初めて出会うイベントが一月七日から一二日までの間、大丸神戸店特設会場で開催されました。このイベントはNHK神戸放送局などが主催し、三田の人と自然の博物館と豊岡のコウノトリの郷公園が共催しました。

初日から県内外から多くのファンが押しかけ、日本最大級の草食恐竜の本物の化石や連続した尾椎や肋骨の参状レプリカをみて丹波の地に生きた古代の生き物に想像をふくらませたり、恐竜を先祖にもつ鳥の中でも、国の特別天然記念物であり、県鳥としてのコウノトリの絶滅から野生復帰までの経緯を紹介するコーナーにも多くの関心を寄せていました。

尼崎から来た七〇歳になるご夫婦は本物の恐竜化石を目の前にして「化石がこんなにきれいに残っているのはびっ

くりです。ろっ骨や尻尾の骨がこれ程多くまとまって発見されたのはすばらしい。その大きさには驚きました。夢のようです」と話していました。



阪神大震災追悼慰霊行事 太田・慧日寺で6回目



阪神大震災から九一四年となる一月一七日に、犠牲者の方々の冥福を祈る行事が慧日寺で行われました。

震災後九年目の平成一六年にはじまり、今年で六回目を迎える追悼行事は午前八時から午後八時までの一二時間に二〇秒間隔で檀信徒らが鐘をつき、本堂では犠牲者の数と同じ六四三四本の線香に祈りをささげていました。震災を知らない子どもたちも参加して「こんな大きな震災が起らないようにと手を合せ、亡くなった人にゆっくり休んでください」と鐘をつき、線香を供えています。近年の参拝者は三五〇人程度で落ち着いているが、徐々に薄れていく大震災も風化させることなく今後でもできるだけこの行事を続けていきたいと寺総代さんは語っていました。